

## 第三者意見

株式会社インテグレックス  
代表取締役社長

秋山 をね 氏

慶應義塾大学経済学部卒業。ファイナンス修士。  
2001年に、SRI(社会責任投資)およびCSRの推進を行う株式会社インテグレックスを設立、  
代表取締役役に就任。



### 1. 評価したい点

冒頭で、グループメッセージ「あしたを、つなぐ」への想いを説明し、その想いを事業活動を通して実現していくことが、グループのCSRであると明言している通り、本報告書では、事業を通じて社会課題に応え、新しい社会価値の創造に努める取り組みが報告されています。本業で培ってきたノウハウを活かした新たな取り組みへのチャレンジは評価でき、「社長メッセージ」で強調されている「変革」と「価値創造」の実践を目指す姿勢が感じられます。

特集1の「ケア対応プランニング」は、高齢化が進む社会における「快適な住まい」のための一つの解であるといえ、また、「オーダーメイドマンション事業」で蓄積された豊富な事例や実績を活かした本社ならではの取り組みでもあります。プランニングの具体例もわかりやすく、興味深い内容です。『ケア対応プランニングに関するガイドブック』を一般に公開して社会に広く役立ててもらおうとする姿勢にも、同社の社会への貢献意識を感じます。

特集2で紹介される「ふなばし 森のシティ」のプロジェクトは、居住者やかかわる企業が一体となって持続可能な街づくりを行うことを目指し、最先端技術の導入に加えて、かつて日本家屋が大切にしていた自然の力を活かした「パッシブデザイン」を採用するとともに、住民参加型のさまざまな環境活動を実施しています。「ハード」と「ソフト」両面での取り組みを展開し、それが、環境負荷の低減だけでなく、コミュニティづくりとその活性化にも役立っていることが印象的です。

また、今年度、「変革」と「価値創造」の実現に欠かせないものとして、「ダイバーシティの推進」を経営目標の一つに位置づけて取り組みを開始しました。今後の取り組みが、社員個々

人の力の発揮につながり、新しい価値を生み出す源泉になることが期待されます。

### 2. さらに期待したい点

本報告書では、社会の課題に応じて、「今」何をしているかがよくわかり評価できますが、今後は、「これから」何をしようとしているかをより明確に打ち出してはいかがでしょうか。少子高齢化とともに、世帯構成や人々の住まい方が変わる中、現在のニーズに応えるとともに、未来に予想されるニーズを先取りするような、一人ひとりにとって快適な住まい・住まい方をより積極的に提案されていくことを期待します。そのためにも、「製・販・管」一貫体制に見られるような、グループ各社の強みを活かした連携をさらに深めていくことが期待されます。

### 3. 未来に向けて

より良い未来、持続可能な社会の実現に貢献するためには、企業としてのインテグリティ(「社会と永続的な信頼関係を築くこと」)と企業理念を実現するためのイノベーション(「新しい社会価値を創造していくこと」)が必要です。また、人、企業、社会、自然、それぞれがもつ力を融合しながら一体となる「一元融合(二宮尊徳)」「社会課題に応じていくこと」がより重要といえるでしょう。

過去の長い時間の中で育まれた自然の資産を有効に利用し、人と自然が融合することによって、人々が「住み」「集う」場所が創られます。住宅を始め、オフィスビルやさまざまな施設の開発、賃貸、運営管理やコミュニティづくりなど、不動産に総合的にかかわる企業として、今後は、自然を「資本」と捉えて、一方的な利用だけではなく「未来の資本」を育むような「あしたを、つなぐ」を期待します。

## 第三者意見を受けて

「CSR報告書2013」の発行にあたり、秋山さまには貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。

当社グループでは、「変革」と「価値創造」に向けたさまざまな取り組みを行なっておりますが、秋山さまに、本報告書に記載の「新たな取り組みへのチャレンジ」をご評価いただいたことは、私どものこれまでの取り組みの一つの成果であると、大変嬉しく思っております。一方で、「さらに期待したい点」としてご指摘いただいた点につきましては、来年度のCSR報告書において、より明確にご報告

できるよう、今後もグループを挙げてCSR活動を推進していく所存です。

貴重なご意見を真摯に受けとめ、引き続き「変革」と「価値創造」にチャレンジし続けることで、より良い未来、持続可能な社会の実現に寄与してまいります。

野村不動産ホールディングス株式会社  
執行役員 CSR委員会委員長  
伊勢 幸三